

令和2年度実施施策に係る政策評価書

(文R2-12-4)

施策名	文化芸術を推進するプラットフォームの形成	部局名	文化庁政策課	作成責任者	日向 信和
施策の概要	地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームを全国各地に形成し、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティの形成を行う。			政策評価実施時期	令和3年8月
施策に関する内閣の重要施策(主なもの)	「文化芸術推進基本計画(第1期)」(平成30年3月6日閣議決定)				
施策の予算額・執行額 【千円】 (単独施策に係る予算)	区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求額
	当初予算	33,916,680	34,546,863	34,896,534	40,236,297
	補正予算	1,915,303	0		
	繰越し等	188,988	0		
	合 計	36,020,971	34,546,863		
	執行額	35,675,444	0		

達成目標1	国立の博物館の機能の充実や、地域の博物館に対するソフト面での支援、学芸員への充実した研修等を通じて、我が国の博物館の振興を目指す。						目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標4 文化芸術を推進するプラットフォームの形成」を踏まえ設定。	
	測定指標	基準値	実績値				目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	R1年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度		
①国立美術館・博物館の自己収入の増加 【新経済・財政再生計画改革工程表2020KPI】	4,291	3,997	4,952	4,313	4,291	1,642	基準値以上	C	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 新経済・財政再生計画改革工程表及び最近の状況を踏まえて設定。目標値は、前年度実績を上回ることを目指し、R1年度を基準値として設定。＜単位：百万円＞ （新経済・財政再生計画改革工程表2020のKPIと同じ指標を設定）</p> <p>【出典】右記の総計（【国立科学博物館】損益計算書の入場料収入、手数料収入、財産賃貸収入、受取利息の計、【国立文化財機構】決算報告書の展示事業等収入の額、【国立美術館】損益計算書の入場料収入、公募展事業収入、不動産賃貸収入、その他事業収入、雑役の合計額）</p> <p>【判定の理由】 目標値に対する実績値が60%未満であったため。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値				目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由	
	H23-27年度平均	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			R2年度
②国立美術館・博物館の寄付金受入額 【新経済・財政再生計画改革工程表2020KPI】	754	1,661	1,458	1,702	1,684	1,493	基準値以上	S	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 新経済・財政再生計画改革工程表及び「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）を踏まえ設定。目標値は、各独立行政法人の中期計画期間を踏まえ、前期（H23-27）平均以上として設定。＜単位：百万円＞ （新経済・財政再生計画改革工程表2020のKPIと同じ指標を設定）</p> <p>【出典】右記の総計（【国立科学博物館】キャッシュフロー計算書の寄付金収入の額、【国立文化財機構】キャッシュフロー計算書の寄付金収入の額、【国立美術館】キャッシュフロー計算書の寄付金収入の額）</p> <p>【判定の理由】 目標値に対する基準値が120%を超えているため。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			

測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	H26年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度		
③博物館の入場者数・利用者数の増加 【新経済・財政再生計画改革工程表2020KPI】	1.29	—	1.42	—	—	1.42	基準値を維持	A	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 新経済・財政再生計画改革工程表及び「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）を踏まえ設定。目標値は、H26年度を基準値として、基準値を上回ることを目指して設定。＜単位：億人＞ （新経済・財政再生計画改革工程表2020のKPIと同じ指標を設定）</p> <p>【出典】社会教育調査（3年ごとに実施。なお、直近年度の実績値は直近の調査結果の数値であり、当該年度の実績とは異なる。）</p> <p>【判定の理由】 目標値に対する実績値が約110%であるため。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	H30年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度		
④博物館長研修、学芸員等専門講座の満足度	60	—	—	59.0	60.0	61.8	基準値以上	A	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）を踏まえ設定。目標値は、博物館長研修及び学芸員等専門講座の研修事後アンケート（当該研修が今後の仕事に大いに役立つか）のH30年度の数値を基準値として、基準値を上回ることを目指して設定。＜単位：％＞</p> <p>【出典】博物館長研修及び学芸員等専門講座の研修事後アンケート</p> <p>【判定の理由】 目標値に対する実績値が103%であるため。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
達成手段	美術館・歴史博物館活動の充実、博物館文化拠点機能強化プラン、独立行政法人国立科学博物館運営費交付金に必要な経費、独立行政法人国立科学博物館施設整備に必要な経費、独立行政法人国立美術館運営費交付金に必要な経費、独立行政法人国立美術館施設整備に必要な経費、独立行政法人日本芸術文化振興会運営費交付金に必要な経費、独立行政法人日本芸術文化振興会施設整備に必要な経費、近現代建築資料等の収集・保存、独立行政法人国立文化財機構運営費交付金に必要な経費、独立行政法人国立文化財機構施設整備に必要な経費								

達成目標2	我が国の地域の文化力向上に向けて、あらゆる人々が文化芸術に慣れ親しめるよう、広く文化芸術を発信するとともに、確実に次世代に継承するための基盤を整備する。						目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標4 文化芸術を推進するプラットフォームの形成」を踏まえ設定	
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	H21年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	毎年度		
①地域の文化的環境の満足度（文化芸術の鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的町並みの保存・整備等）	52.1% (59.6%)	53.6% (58.7%)	—	33.5% (45.4%) ※	36.4% (49.1%)	36.5% (49.5%)	60.0%	B	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>「文化芸術推進基本計画（第1期）」において、各地域の歴史や信仰等に根ざした文化や、特色ある地域文化等、地域の特性に応じた文化芸術振興を図ることが求められているため、「文化に関する世論調査」において、住んでいる地域での文化的な環境に満足していると回答した者の割合とする。なお、「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次方針）」では、「約6割の国民が地域の文化的環境に満足すると回答することを目指す」とされていたことも踏まえ目標値を設定。</p> <p>分母：全国18歳以上の日本国籍を有する者 分子：住んでいる地域での文化的な環境に満足しているか聞いたところ「満足している」とする者の数</p> <p>※H30年度から調査方法が対面からオンラインに変更となった。これにより「分からない」と回答する割合が大幅に増加したため、当該回答を除いて「満足している」人の割合を算出した値を括弧に示す。</p> <p>【判定の理由】 目標値に対し、60.8%の実績であったため。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	H23年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	令和2年度		
②文化遺産オンラインへの訪問回数（回）	1,016,237	1,715,976	1,884,600	2,042,900	2,401,600	3,079,909	1,999,999	S	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）において、進捗状況を把握するための指標として規定されている。東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される令和2年度までに、平成23年度の訪問回数の2倍を担保することを目指し、毎年111,111回増を目標に設定。</p> <p>【出典】ポータルサイト管理事業者による報告書</p> <p>【判定の理由】 年度ごとの目標値を毎年度超えているため</p>
	年度ごとの目標値	1,555,555	1,666,666	1,777,777	1,888,888	1,999,999			
達成手段	文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究、文化芸術都市の推進、文化経済戦略推進事業、日本芸術院会員年金の支給等に必要な経費、鑑賞・体験機会等充実のための事業推進								

達成目標3	文化政策に関する基礎的なデータ収集や調査研究の充実を図り、客観的な根拠に基づいた政策立案の実施を強化する。						目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標4 文化芸術を推進するプラットフォームの形成」を踏まえ設定。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	—	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	毎年度		
①結果が政策・施策の検討等に活用された調査数	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	A	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 調査研究が政策・施策の検討等に活用されているか、実施調査件数から測定。すべての調査が活用されるよう目標値は100%としている。（分母：前年度に文化政策立案事業により実施した調査件数、分子：結果が政策・施策の検討などに活用された件数）</p> <p>【出典】：文化政策立案事業による調査件数（H30:10件、H29:12件、H28:3件、H27:3件、H26:1件）</p> <p>【判定の理由】 目標値に対する実績値が100%であるため。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
達成手段	文化政策企画立案、文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究								
達成目標4	宗教学者の日常の管理運営業務における具体的な事務処理方法等の講義を通じ、適正な管理運営についての理解を深める。						目標設定の考え方・根拠	宗教学者が適切な運営を行うためには、宗教学者の関係者等を対象に、全国で研修会等を開催し、適正な管理運営を促すことが一助となるものと考えられる。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	H21年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	毎年度		
①宗教学者実務研修会受講者の満足度	91.0%	93.0%	91.0%	93.0%	95.0%	—	93%以上	A	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 参加者アンケートの有効回答数に占める「とても有意義であった」「有意義であった」と回答する割合を測定した。目標値は、過去5年の実績の平均とし、93%以上の満足度を設定した。</p> <p>【出典】宗教学者実務研修会評価企画会議資料（宗教学者実務研修会に関するアンケート調査）</p> <p>【判定の理由】 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、実務研修会を実施しなかったため、4年分の実績値から判定したところ、目標値に対する実績値が年度ごとの目標値を超えているため。</p>
	年度ごとの目標値	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	—			
達成手段	宗教行政の推進、東日本大震災により滅失・損壊をした公益的な施設等の復旧のための指定寄附金、平成28年度熊本地震により滅失・損壊をした公益的な施設等の復旧のための指定寄附金、宗教学者実務研修会								

	<p>目標達成度合いの測定結果</p>	<p>相当程度進展あり</p>	<p>「B」又は「C」の指標は含むが、測定指標のうち「S」「A」「B」が半数以上であるため。</p>
<p>評価結果</p>	<p>施策の分析</p>	<p>【必要性】 「文化芸術推進基本計画」（第1期）（平成30年3月6日閣議決定）において、地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームを全国各地に形成し、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティを形成することが、目標の1つとして掲げられている。それぞれの測定指標に係る事業は、国民や団体等の活動を支援し、当該目標の達成に貢献するものであり、その評価が可能な当該事業の必要性は高い。</p> <p>【効率性】 それぞれの指標に係る事業については、その対象（博物館・美術館、宗教法人等）や政策手法（地域文化の発信、政策の基礎となる調査研究等）を明確に分類し、個別具体的に、真に必要で事業を実施しており、効率的な施策が行われている。</p> <p>【有効性】 本施策はすべての測定指標において、B判定以上の実績を継続的にあげており、博物館の振興や地域の文化力向上等が着実に進んでおり、有効性が認められる。</p> <p>一方で、「次期目標等への反映の方向性」にも記載の通り、今回の評価で設定した指標とは異なる観点で各達成目標の達成度合いを測定できる指標について、文化芸術推進基本計画の中間評価（令和3年度中）や文化芸術推進基本計画の改訂（令和4年度中）を通じ検討する。</p>	
	<p>次期目標等への反映の方向性</p>	<p>現在すべての指標において、B判定以上であり、基本的な方向性としては、現在の取組について、不断の見直しは行いつつ、引き続き事業の継続を行うことにより、「文化芸術を推進するプラットフォームの形成」の実現を図る。</p> <p>他方、各事業を通じた社会への還元など、現在設定している目標や指標とは異なる観点も含め、文化芸術推進基本計画の中間評価（令和3年度中）や文化芸術推進基本計画の改訂（令和4年度中）を通じ、各目標や指標の適正性について、改めて検討を行う。その際、本評価期間の間に生じた新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする状況の変化等についても考慮に入れることとする。</p> <p><主な概算要求>（拡充は、昨年度予算額と同額のものを含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立文化施設の機能強化（令和4年度の概算要求額：33,113百万円：拡充） ・国立文化施設の整備（令和4年度の概算要求額：3,114百万円：拡充） ・DX時代の著作権施策の推進（令和4年度の概算要求額：428百万円：拡充） <p><機構定員要求></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな著作権政策の推進に必要な体制強化に向け、機構を要求 ・博物館振興に関する施策の総合的な推進に向けた体制整備に向け、定員1名を要求 <p><法令改正></p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館法の一部改正（予定） <p><税制改正要望事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の機能強化を図る法改正に伴う税制上の所要の措置等 	
<p>学識経験を有する者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標2について、実績値が低い指標が見受けられたため、低く留まる理由・原因を詳細に分析する必要があるのではないか。 ・達成目標3については、施策目標に照らし合わせて、その内容の妥当性について検討するべきではないか。 ・施策12-3の達成目標とその指標が重複しているため、達成目標に照らし合わせて、棲み分けを行うなど整理するべきではないか。 		